

誣説にて、あたためことなり、ぐたにのりう、たんにあらざる證は、源氏もの語をとめの巻に、夏のかたの前栽に、さうびくたにをうゑられたること見えたり、これに仍て考ふるに、りうたんは本草綱目啓蒙等に見えたるごとく、暮秋より初冬へかけて、花さき實をむすぶものにて、夏のものにあらず、しかれども夏のかたのせんざいにも、春秋の花をませてうへられしよしあれば、いかゞとおもふ人もあるべけれど、さにはあらず、それはさうびくたにの外に、春秋の花はませてうへられたるにて、いかでか夏のかたのせむざいに、夏の花を置て、春秋の花を詮とはうへられべき、

〔大和本草藥〕龍膽 倭名リンダウ、一名クタニト云、又思草ト云、秋碧色ノ好花ヲヒラク、山野ニア

リ、葉ハ末ニ尖アリ、白花モアリ、又山龍膽アリ、雜草載之、又サ、リンダウト云草アリ、

〔和漢三才圖會〕九十二末龍膽 陵游 和名衣夜美久佐、一云瀨加奈、今云里牟止字、○中略

按龍膽和漢共用之、藝州廣島之産良、豊前中津次之、葉似笹而厚、六月開花、紫如鈴鐸形、向上、花中有

苔子、又有正白花者、名笹龍膽、形狀小、

〔重修本草綱目啓蒙〕八龍膽 山草 リンダウ龍膽ノ音ニガナ和名エヤミグサ同上クダニ古

オモヒ草同上アゼ桔梗ヲコリオトシ播州サ、リンダウ奥州一名斜枝大夫藥譜

斜枝大士輟耕録 觀音草郷藥本草

向陽ノ山野ニ多ク生ズ、葉ハ竹葉ノ如ニシテ短シ、故ニサ、リンダウト云、葉兩對シ三縱道アリ

テ桂葉ノ如シ、圓莖高サ一二尺、肥地ニ生ルハ三尺許、八九月莖梢或葉間ゴトニ、三五花ヲ開ク、花

ノ本ハ牽牛花ノ如ク、筒形ヲナス、末ハ五瓣ニ分レテ桔梗ノ花ノ如シ、青碧色愛スベシ、晝ハ開キ

夕ニハ收ルコト數日、後小莢ヲ生ズ、冬ニ至テ苗枯ル、又細葉ノ者アリ、葉ノ濶サ一分長サ二三寸、

紀州ノ熊野ニ産ス、救荒本草ニ圖スル所ニヨク合ス、花戸ニハ白花モアリ、又白花ニシテ瓣ノ外